

## 院内災害訓練 2016年9月13日

『災害対応通知です。12時頃、和歌山県南方向沖を震源としたマグニチュード8.0の地震が発生しました。当センター付近の震度は6弱です。関係者は至急、救急病棟討議室に集合してください』

この放送とともに、通算25回目となる当センター災害訓練が総勢約383名(訓練参加183名、模擬患者62名、外部からの見学者138名)の参加により9月13日(火)に行われました。今回の訓練は、『南海トラフ地震が発生し、津波による二次的被害も考慮し、大阪府が作成した被害想定に基づき最大2,500名の重症者発生に備える』ことを目的としたものでした。例年は多数傷病者受け入れ訓練がメインでしたが、今年は新たにBCP(Business Continuity Plan: 事業継続計画)、BCM(Business Continuity Management: 事業継続管理)という重要な要素が組み込まれ、当センターで作成中のBCPに基づく被害想定で、職員管理ならびに院内の入院患者管理に重点を置いた訓練になりました。

参加者はDMAT隊員やFERST受講者に加えて、現在作成中のBCPの改善点などを指摘するために、BCP策定委員会のメンバーが災害棟1階の現地指揮所で指揮並びに情報共有を行いました。自家発電は作動するもののエレベーターは停止している中での病棟患者の移動や避難などのミッションもあり、想定範囲内とはいえ危機感を感じながら、さらなる対応を病院として考える必要があることに気付いた実践的な訓練でした。

BCPは企業や政府、地方自治体レベルでは既に導入が進んでいますが、医療機関では全国でわずか7%、災害拠点病院でも33%に過ぎず(2016年2月時点)、なかでも大阪府は25%未達と全国最低レベルです。

本訓練で分かった問題点や課題元に、問題点を洗い出し、病院としての災害時の在り方を再検討の上、今年度中に当センターのBCP(地震編)を完成させたいと考えています。



## 近畿ブロック技能維持研修 2016年10月23日

京都第一赤十字病院にて10月22日・23日、近畿ブロック統括DMAT登録者技能維持・ロジスティクス研修および技能維持研修が行われました。

今回は統括技能維持に、当院から久保医師が参加しました。多様な災害が発生する中で、常に災害医療は進化していきます。技能維持研修では、常に最新の災害医療を学べる場となっており、様々な災害に対応できるようDMAT隊員の更新には必須の研修になっています。

今後も最新の知識を身につけ、災害時には即応できるよう、常に学んでいきたいと思えます。

